

円山公民館



円山公民館

福井学事業(則武三雄を語り継ぐ)



円山地区に居住していた詩人・則武三雄氏。福井市の文学の先駆者といわれるその氏の足跡をたどると共に地区の中学校2年生の生徒さんに授業を行い言葉、文章を学び詩作に挑戦してもらおう。

第1回
・10/22

今年度の事業に向けた事前打合せとして、大東中学校校長(教頭)、詩人懇話会関係者、文化振興会関係者、福井学担当主事による打合せ会を行います。日程や時間、概要などをすり合わせる。資料の準備や必要な詳細も決定していく。



生徒の皆さんによりよく学んでもらえるように、関係者同士が真剣に話し合います。



第2回
・11/24
・12/1
(全2回)

・大東中学校校歌の作詞を手掛けた詩人則武三雄氏について「赤い髪(詩集)」を使い、どのような生きざまだったのか? また円山地区での生活はどんなだったかなどさまざまな視点での授業を詩人懇話会の先生方に行ってもらい、授業後半では、気づいた事や詩作の材料になりそうな物や事柄をメモに残して次の授業で活用する。(1回目授業)
・前回の授業中に書き留めたメモを元に日常生活の中の事柄などを用いて詩作に挑戦。前回の授業中に習った技法などを使って書く子や直感やひらめきなどを使う子などいろいろな作品が出来あがる。(2回目授業)



第3回
・12/14

中学校の授業で子ども達が作った詩を詩人懇話会の先生方に再度集まっていたき、選考会を行う。選考の中で選ばれた作品は花まるボエム(福井新聞)、会報、表彰(円山ふれあいまつり)それぞれの機会で見せさせてもらう。(生徒さんの了解を事前にもらう)また、全員の作品を詩集として製本し、学校にお届けする。さらに選ばれた作品には、賞状と記念品を作成しお渡しする。



* 事業に取り組んでみて

郷土の詩人である則武三雄氏について学ぶと共に、言葉や文章に親しみを持ってもらい表現することの楽しさに触れてもらうきっかけ作りになればという思いで取り組んでいます。平成30年は、円山地区まちづくり協議会の事業として取り組み、翌年に円山文化振興会の発足とともに、福井学事業と文化振興会での共催という形で取り組みがはじまりました。大東中学校さんのご協力もあり昨年まで5冊の詩集を作ることができました。デジタル化が急速に進む中、生きた言葉に触れる機会を作り、子ども達のやってみようという気持ちになってもらい円山に関心を持ってもらえるきっかけになるように今後も皆様方のご協力をいただきながら取り組んでまいりたいと思います。

ふるさとの詩人 則武三雄



明治43年鳥取県米子市に生まれた。本名は則武一雄であるが、生涯の師と仰いだ三好達治の名の一字をとって三雄と改めたといわれている。
19歳の頃から17年間、当時の朝鮮に渡り、そこで役所の書記として過ごした。その頃に発表された『鴨緑江』は青春時代の代表作である。

昭和20年の終戦で、故郷の米子市に戻ったが、当時の福井県坂井郡越前村(現坂井市三国町)に疎開していた詩人三好達治の誘いを受け、三国に来た。翌年の昭和21年2月以降、福井の地に留まり、福井人としての生涯を送ることになった。

『円山地区の昔と今』平成19年発行より抜粋

毎年4月29日(石神が建立された日)にあわせて、東尋常道歩道(三國)にて墓誌が行われている。則武三雄氏を顕彰関係者が集い墓誌建立の意義を説いている。

